



Microsoft365を 活用してシステム開発

はじめに

今迄は、Lamp環境でのWebアプリケーションやMacやWindow環境でのクライアント・サーバーシステムでの基幹システムや専用システムを構築し運用されていましたが、近年はVisual Studio ツールを使ってC#・VB.NETなどの開発も今後は減ると思います。

自分はC#やJavaなどもできますが、完全なクラウド化を見据えて、15年前に見切りをつけてSharePointにターゲットを変え今に至ってます。

マイクロソフトクラウドのMicrosoft365(DBはSQLサーバー)がお勧めです。

販売管理などはDynamics365もサブセットですし、メインはSharePointで、最近流行のPowerシリーズとの活用でアプリ的なシステムも作成可能です。

当然MS製品ですのでC#でのブラックBOXアプリも開発可能ですし、外部からのDBアクセスも可能です。

自分は月/1500円で使用しており、最新のOffice製品も使えます。

複数メンバーは招待(無償:人数制限なし)すれば、その方の使用料は掛かりません。

世界で5億人以上は使っており、これから300人以下の企業も採用が増え、1人5台保持迄のPC接続が可能で、iPadや携帯からもアクセス可能であり、MSの主力商品でAzureより使っているユーザーは多いです。

このプラットフォームのアプリなら、販売戦略的にもマイクロソフトと平行して走れます。





Microsoft365を 活用してシステム開発

目次

Microsoft365 とは、SharePoint Online とは？

Microsoft365(SharePoint) で何ができるの？

クラウド化実現に向けての予備知識の習得

SharePoint Online のアプリ開発

Visual Studio での Office および SharePoint 開発

SharePoint ソリューションの作成

Microsoft365 導入費用

① レガシーシステムのデータベースの移行

② 現行システムの環境設定の変更

③ 現行システムの改修環境の最新版化

④ 現行システムのVB6リソース版の.net化

⑤ SharePoint サンドボックスソリューション の活用

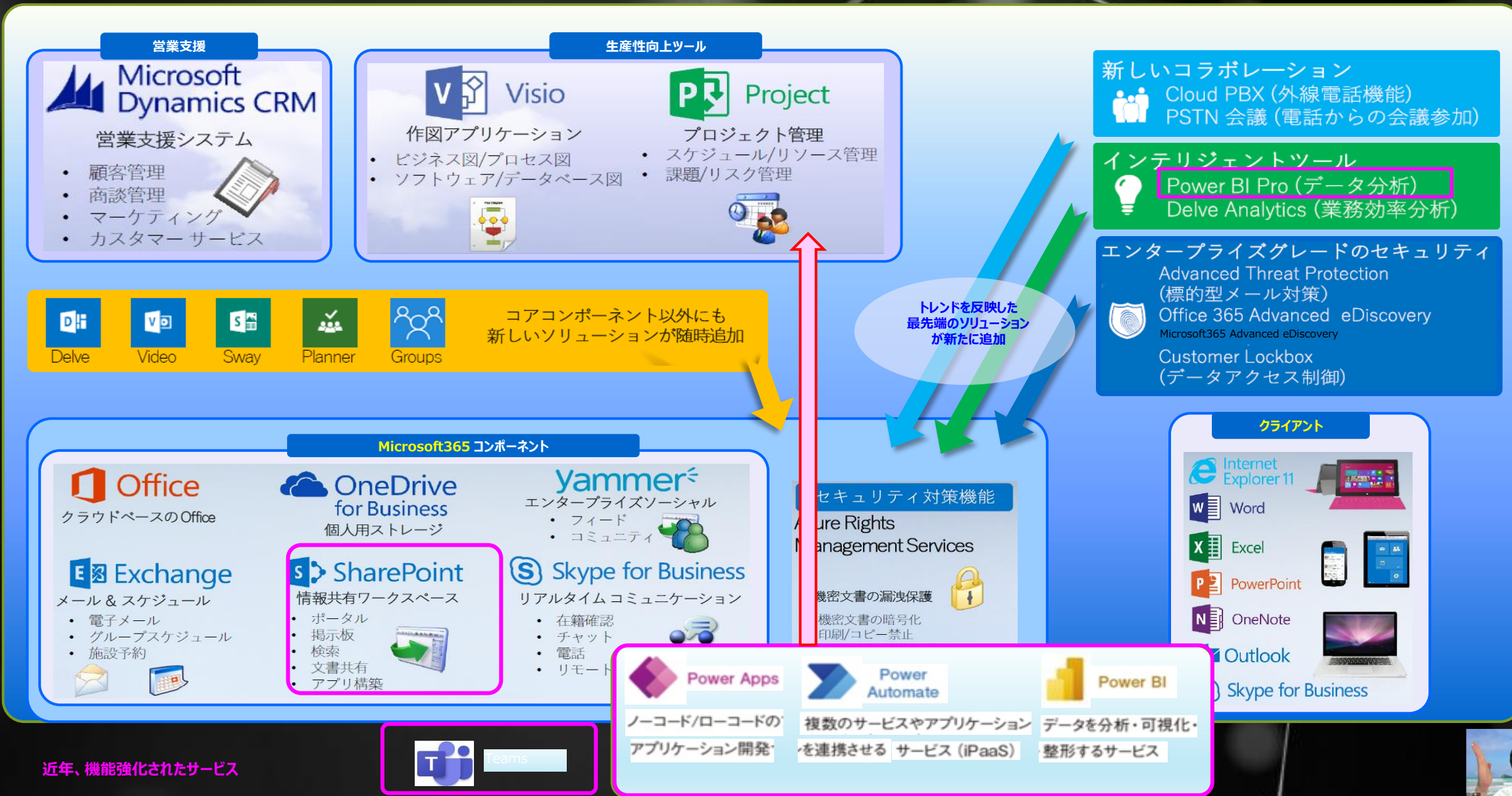
⑥ Power Plat Form での業務アプリの開発が必要

⑦ 帳票出力機能もPDF化やEXCEL化対応しペーパーレス化の実現



Microsoft365 とは、SharePoint Online とは「MS提供コラボレーション環境」

Microsoft365 はマイクロソフトが提供するコラボレーション環境の一部で、「SharePoint」は情報共有ワークスペース基盤の役割を担っています。



Microsoft365とは、SharePoint Online とは

以前は従来の**クラシックUI**でテーブル各種データを管理して、スプレッド(表)形式でデータを管理したり、表の行データをページ単位で詳細表示して管理していたのが一般的でした。

処理は「SharePoint」のコア部分以外の書式設定と同様に、「スクリプトWEBパーツ」で**「CSSとJavaScript」**を追記して要望された機能を実現したり、ページイメージ画面をより業務アプリイメージにしたい場合は「Infopath」で画面レイアウトを変え処理を追加する事で実現していました。また、メール配信や設定内容に基づくアクセス権限の設定、承認ワークフローは「SharePoint2010ワークフロー」で対応していました。ただ、この機能の廃止、Powerシリーズの追加、モダンUIの追加、「ACCESS」アプリの取込の廃止、非推奨の「.net」プログラムのサンドボックスによる取り込みの廃止や「InfoPath」も廃止も近々です。

今後は従来の**クラシックUI**と「PowerAutomate」(動作不安定)だけで運用するか、「モダンUI」(SharePointFrameWorkを使ってWEBパーツを追加)+「JSON」+「PowerApps」+「PowerAutomate」で運用するかの二者選択かと思います。

しかしながら、後者はテーブル一覧画面にWEBパーツを組み込めない、カスタマイズができないという欠点が残ってしまいます。

従って**テーブル管理を重点に置いた業務**は、標準のWEBパーツが総て使える**クラシックUI**で構築すれば**ユーザー要望を殆ど叶える事が可能**です。また、**業務アプリイメージでフォームを提供したい場合は「PowerApps」(モダンUI)**での対応が自然な流れで制限や非推奨の無い継続的な基盤運用に繋がると推測します。

これはマイクロソフトの期待している制限のあるスクラッチ開発の撲滅提案として、**Microsoft365**(Dynamics+SharePoint+Powerシリーズ)の使い方なのかも知れません。

但し、この事は近年、**Microsoft365を導入し運用**を開始したユーザーには伝わっておらず、**クラシックUIは難しそう**なのでマイクロソフト推奨の**モダンUI**だけで総て対応し**PowerApps**での画面編集はやらない(追加費用が必要)、**JSON追加**だけでできない事は機能制限とするという、基盤として継続運用していく事を考慮すると余りお勧めできない方針を打ち出している組織も有ります。

「Powerシリーズ」はローコードと言われてますが、実は設定が難解であったりと割と**敷居が高い**ので納得する処もあります。

「PowerApps」は「VB」で作られた**クラサバシステム**の画面処理と同じ処理を記述すると**ローコードでは無くなってしま**うのかと思います。

自分は20年前より追い先寿命が短い「Visual Studio」によるスクラッチ開発からは引退し、Javaや携帯電話用の開発も含め、若い方々にボタンタッチしているのでこんな見解なのかも知れません。20年前の**VB系**や**.NET系**の保有システムは総て思い出として記念になっています。



「Microsoft365」(SharePoint)で何ができるの？ ですが、Ohana・Fieldの「eラーニング」サイトと「Youtube」に作成した読上動画をご紹介させていただきます。
<https://m365kjs.sharepoint.com/sites/ohana>

- ◆00. 著者紹介
- ◆01. 公開情報等の紹介
- ◆02. SPO概要とサイト構築作業
- ◆03. テンプレートの概要と活用
- ◆04. テンプレート作成手順
- ◆05. テンプレート展開事例集
- ◆06. テンプレート操作編
- ◆06. モダンUI Teamsサイト・コンテンツ操作編
- ◆07. ドキュメントライブラリ操作編
- ◆08. PowerPlatform
- ◆09. 事例 作業依頼サイトメール配信付き
- ◆10. 事例 ヘルプデスクサイトメール&承認WF付き
- ◆11. 事例 アンケートサイトアクセス権限付与付き
- ◆12. クラシックUI Onlineカスタマイズ編01～25
- ◆13. クラシックUI Onlineカスタマイズ編26～50
- ◆14. Microsoft365を活用してシステム開発
- ◆15. ハブサイト構成「モダンサイト編」
- ◆フィリピン BPO事業 for SharePoint Online
- ◆フィリピン関連ビジネス

<https://youtu.be/waAFZP4kqJA>
<https://youtu.be/ITCdl3tzbKg>
https://youtu.be/o5JmUR_C610
<https://youtu.be/RH1EWIbKRV4>
<https://youtu.be/AJuUUXkk990>
https://youtu.be/a_E7bVVvb4
<https://youtu.be/G--UPhmlhIE>
<https://youtu.be/VVv-IVLifh8>
<https://youtu.be/e3J4bmGHIPw>
<https://youtu.be/kfME6jmrPUY>
<https://youtu.be/aWNljZrs9K8>
<https://youtu.be/aEaFVUpe3I>
<https://youtu.be/aWNljZrs9K8>
<https://youtu.be/HBu-MBsShzY>
<https://youtu.be/91oio9ID2t8>
<https://youtu.be/> 本書
<https://youtu.be/aPexvacwmnk>
https://youtu.be/ot56303_oxI
<https://youtu.be/byv0SgBmhRQ>

具体的な要望に対するレクチャーは左記の概要イメージを理解された後が専門用語の理解も含め宜しいかと

また、上記で説明できていない何ができる？ は、基本、「SharePoint」はMicrosoft提供のクラウドフレームワーク(Webアプリケーション)なので、**IIS上で動作するアプリは、サンドボックスの組込開発を含め、移植・移行対応は可能**です。

またサブセットの「Dynamics365」上ではPowerシリーズを管理しており、ここでは**販売管理システム**などが構築されています。

一番の利点は、PC、iPad、携帯など総ての端末からほぼ類似した画面イメージで参照できるので、インターネット上のある総てのSNSなどの連携も可能です。



クラウド化実現に向けての予備知識の習得

参考書籍：[ひと目でわかるMicrosoft 365 業務アプリ作成編](#) | 株式会社イルミネート・ジャパン 奥田 理恵

マイクロソフト提供の「Microsoft365」上でのシステム開発(業務アプリ作成)で、最新版の「SharePoint(SQLserver19)」と「PowerApps」+αでの開発を行う。

① 「さくらのWindowsServer」などで管理されているテーブルを総て「SharePoint」のリストに移行する。

⇒**レガシーシステムのデータベースの移行**

② 現行システムの参照テーブルの変更

現行運用中の「Sybase」「SQLサーバー」「ACCESS」などのRDBMSの移行先テーブルの参照設定

⇒**現行システムの環境設定の変更**

③ SharePoint標準のクラシックUI画面で、そのまま使用可能なマスタ登録などの画面とアプリライクなカスタマイズが必要な画面の切り分け検討を行う。

※既設アプリ画面に類似した対応は、④～⑥の検討が必要。費用が掛かるため可能な限り対応したくない

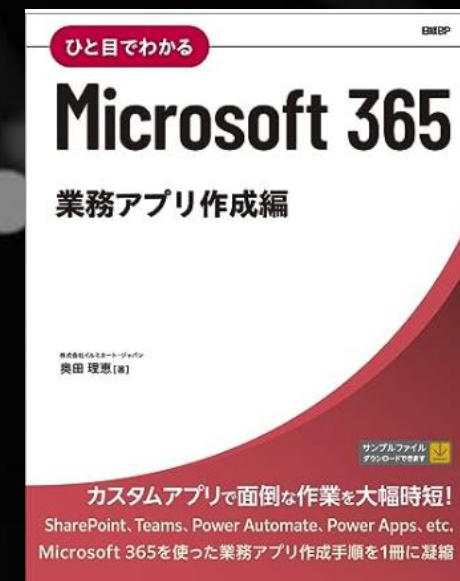
④ 既設の「VB6」プログラムを「VB.net」化、「VB.net」で作られたプログラムをSharePointのサンドボックス機能を使って「VisualStudio2022」でコンパイルし動作検証を行う。

※但し、このマイクロソフト非推奨で永明が期待できない事を念頭に入れておく

⑤ 既設の「VB6」や「VB.net」で作成されている共通系機能の画面を「PowerApps」で作成し、内部処理は「PowerAppsの内部コード」に置換して動作検証を行う。

⑥ その他、保有している多くの画面系機能も「フィリピン人材」の活用で順次、「PowerApps」化し、クラウド化工数を安くする。

⑦ 帳票出力機能もPDF化やEXCEL化対応し、ペーパーレス化を実現する。



既設に運用・動作システムのアプリ部は「**Visual Studio**」で作成し、RDBMS部は「**Sybase**」「**ACCESS**」「**SQL Server**」などを利用したシステムを「Microsoft365」(SharePoint)へ**移植・移行**するのは、マイクロソフト社製フレームワーク上なので比較的容易であり、関連する記事は以下を参照ください。

SharePoint Onlineのアプリ開発

<https://www.cloud-for-all.com/m365/blog/sharepoint-devapp>

概要 Visual StudioをSharePoint Onlineのアプリケーション開発に用いる利点は、生産性と拡張性およびセキュリティの高さです。生産性に関してはVisual Studio内に開発に必要なツールがすべて統合されているため、一つの画面だけで開発を進められます。通常アプリケーション開発といえば、複数の開発ツールを起動するため、デスクトップ画面は何かとごちゃごちゃしてしまいます。Visual Studioならスッキリとした画面で開発を進められるため、生産性が上がります。

Visual Studio での Office および SharePoint 開発

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/visualstudio/vsto/office-and-sharepoint-development-in-visual-studio?view=vs-2022>

概要 開発環境の考え方:開発者向けのサイトテンプレートは、VisualStudio から開発者がアプリケーションを直接 SharePoint に配置できるよう設計されています。

SharePoint ソリューションの作成

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/visualstudio/sharepoint/create-sharepoint-solutions?view=vs-2022>

概要 チュートリアルやコード サンプルがあります。「英語版ですが」

この開発実績はノウハウになるので、この関連の開発作業も受注拡大にも繋がりますし、自分の提案している **フィリピンBPO事業** も何でも対応可能な事業展開になりますし、次世代スタッフへ引き継げるノウハウ・資産にもなります。 検討中ユーザー例：ユーコープ 情シス部

Microsoft365 導入費用

「Microsoft365 Business Standard」は、昨年頃は¥1,200位でしたが、円安の影響にて今月は¥1,560(税込¥1,716)になっています。ただ、これを契約していれば、Microsoft365 + 最新版のOfficeは使用可能なのでお得かと思えます。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/microsoft-365/business/compare-all-microsoft-365-business-products-b>

ここでの利点はユーザー毎に1つのアカウントを取得(税込¥1,716)すれば、他の使用者は無料で招待できる点です。

① レガシーシステムのデータベースの移行

レガシーシステムで使用しているRDBMSは「Sybase」「PostgreSQL」「MySQL」「ACCESS」「SQLサーバー」などに対応しており、ファイルサーバー、Lampサーバー、IISサーバー上の展開されたデータベースを参照するクライアント・サーバー型システムとなっています。

これは単に、システムデータ管理用のサーバーを震災対策としてDRを考慮して2拠点管理且つRAID構成のサーバーを保持する事が必要ですが、お客様の安心を提供するためには、運用管理コスト面で多大な管理費用を考慮する事が必要であり、システム提供価格も割高になってしまいます。

また、古くなったサーバーのOSを入れ替える場合もそれ相応の時間と費用が掛かってしまい、安い価格でシステム提供はできなくなる恐れも生じます。よって、近年流行のRDBMSを持った(フレームワーク)クラウドサービスを利用する事が手っ取り早いと考えます。

既存ユーザーデータは「Sybase」「SQLサーバー」「ACCESS」などのRDBMSで管理していますので、「SharePoint」のテーブルヘデータ移行が容易にでき、且つ、クラサバシステム(アプリ)からODBC接続設定にて、「SharePoint」のリストヘアクセスができればクラウド化は完了です。

<https://access-support.jp/column/access-sharepoint-cloud/>

今回は「いつでも最新版のSQLサーバー」とセキュリティ面からMicrosoft365(SharePoint Online)をご提案します。年間使用料は20,000円以下で、最新版のOfficeやTeams、AzureADも連携されており、1TB以上のディスクと別途OneDriveも1TB使用可能なクラウドサービスです。

当然、マイクロソフト社のフレームワーク製品であるため、今迄使ってきた開発環境とも親和性に優れ、Office製品、SNSなどの連携、各種API連携も問題ありません。

取急ぎ、フレームワークで管理している「SQLサーバー」へレガシーシステムで使用しているRDBMSの移行検証を実施しました。

※Microsoft365(SharePoint)知識は、開発者向け説明であるため、概要を理解している事が前提条件とします。

※Microsoft365(SharePoint)とはを理解していない方は、**e-ラーニングサイト**に展開された資料の査読、読上動画の聴講をお願いします。

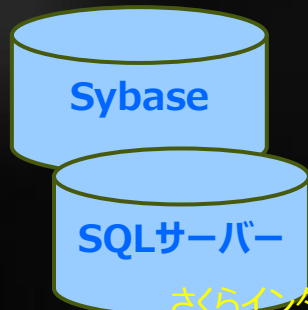
※また、説明を受けたい場合は、別途、勉強会の開催を行いますので、ご依頼ください。

今回は、「**結システム**」と「**個別Daisyシステム**」のRDBMSのデータ移行検証を実施しました。

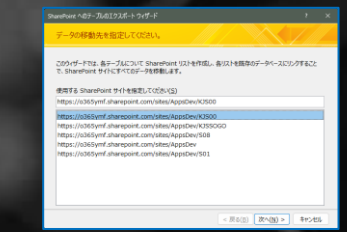
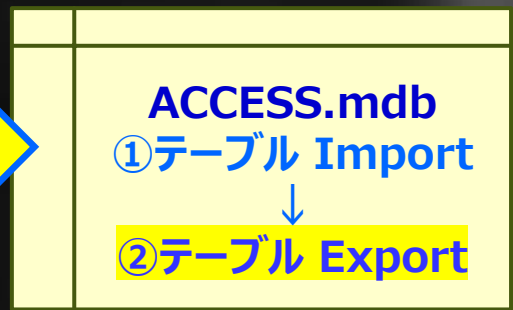
さくらインターネットのSQLServer情報
dev.kjsg.co.jp#sqldebug
id Kjs pw kjsyui
データベース名：KJSSOGO-DEMO



結システム は、共通(com)、販売(han)、見積(mit)、POS、通販(thn)、請求(sei)、整備(Seb)、icon 機能別にテーブルを保有しています。プログラムも**「VB6⇒VB.Net変換⇒最新版」**にて現在のリソースに至っていると推測しますので、このソースを活用してMSが推奨する最先端クラウド化システムへの作業の流れが良いと思います。



①テーブルの取込み



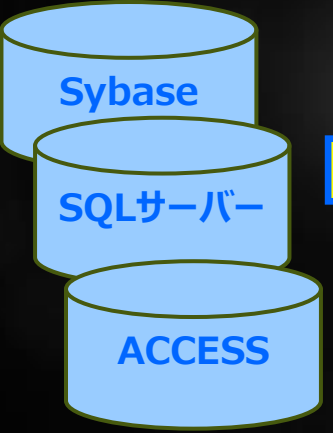
②テーブルの出力(移行)



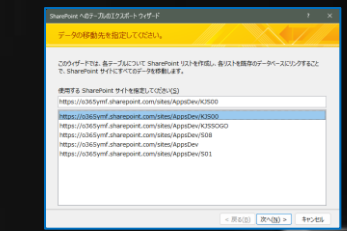
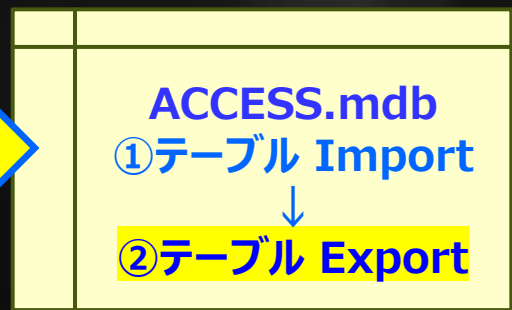
さくらインターネットSQLServer
dev.kjsg.co.jp¥sqldebug
Id : Kjs, pw : kjsyui
DB名 : KJSSOGO-DEMO

<https://m365kjs.sharepoint.com/sites/sys01>
↑クリックしてサイトを参照してください

個別システム は、船荷管理、イベント管理、寺院管理、会員管理、賃貸管理、ホール管理、Pos少品種、Poos多品種 システム別にテーブルを保有しています。プログラムも**「VB6版」**と古いですが、このソースを活用してMSが推奨する最先端クラウド化システムへの作業の流れとなります。



①テーブルの取込み



②テーブルの出力(移行)



| | | | |
|--|-------------|--|-------------|
| | イベント人材管理 | | ホール管理 |
| | 船荷管理 | | 寺院管理 |
| | POS少品種「飲食」 | | POS少品種「美容室」 |
| | POS多品種「婦人服」 | | POS多品種「雑貨」 |
| | 専門学校管理 | | 賃貸管理 |

<https://m365kjs.sharepoint.com/sites/sys02/pkg01~pkg10>
↑クリックしてサイトを参照してください

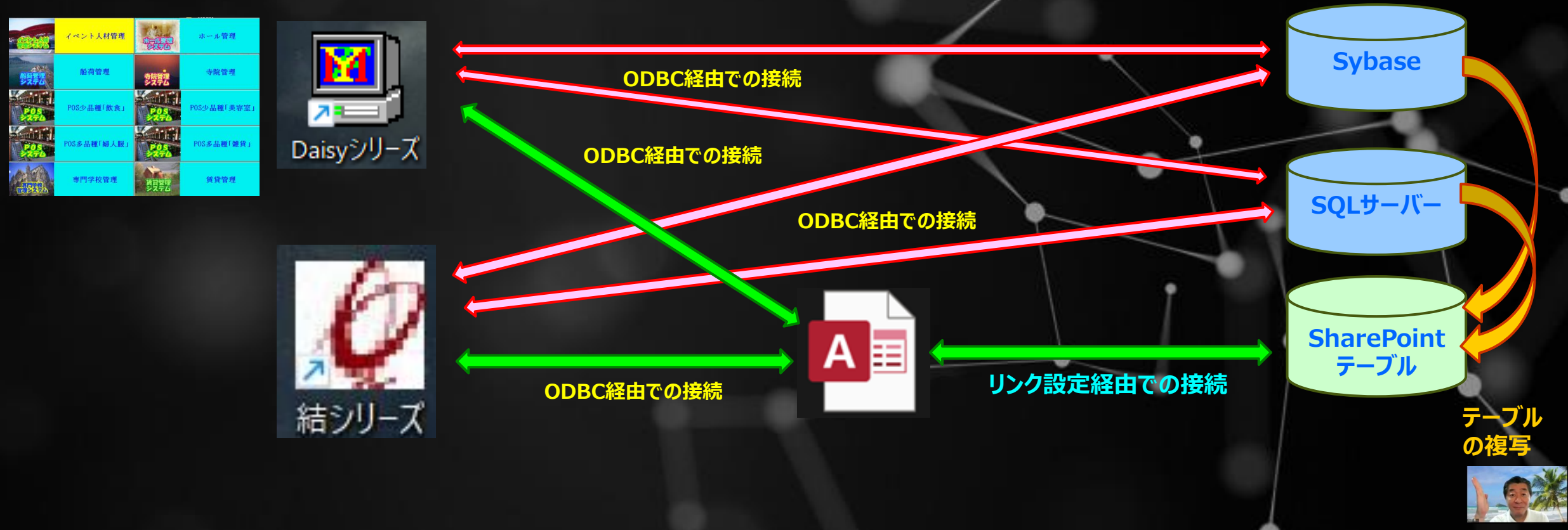


② 現行システムの環境設定の変更・プログラムの変更

現行のクラサバシステムは、ローカルPCのWindowsで標準提供されている32bit系ODBCドライバー経由でRDBMS(「Sybase」「SQLサーバー」「ACCESS」など)に接続していましたが、SharePoint接続用のODBCドライバーは提供・公開されていません。

市販では「Cdata Software Japan社」が **SQLリンクサーバー経由のODBCインタフェースドライバー**を提供していますが**有償**です。SDKにてODBCを作成する事は可能ですがそれ相応の開発費用が掛かるため、ACCESS.mdbのリンク設定を活用して既存システムからSharePointテーブルへのI/O検証を行いました。

今回は、①でデータをSharePointにExportした時に作成されるリンクをACCESS.mdb(SharePointテーブルのリンク)に設定にて、既存システムからSharePointテーブルへのI/O検証を行いました。 ※ ACCESS.accdbはMS不具合にてODBC接続できない
※「Sybase」「SQLサーバー」へのSQL構文と「ACCESS」へのSQL構文は異なるため、SQL記述部の変更が必要になります。



③ 現行システムの改修環境の最新版化

過去、Visual Studio(VB6など)で構築されたシステムは32bit版環境で実行形式を構築可能なDLLやACXを多用しています。よって、このレガシーシステムの機能強化や機能変更する場合は、必然的に32bit環境のOS下でプログラムをコンパイルし実行形式を作成する必要が生じます。

現在、PC向けのOSだったWindows8.1(32bit)版は、既に2023年1月10日に延長サポートが終了しています。

また、最新版のWindows11は、残念ながら64bit版のみとなっているため、構築環境として使用できません。

従って、Windows10pro(32bit)環境のみでしか実行形式を構築する環境は残されていませんが、サポート終了は2025年10月14日となって残り2年以下になっています。

※お客様に納入するシステムをサポート終了した環境で構築し、提供する事は動作保障と信頼のないシステム提供なのでお勧めしません。

今回は、この2年弱の間にVisual Studio(VB6など)のコンパイルし実行形式を構築し、次世代のフレームワーク環境で同一機能を有するシステムへ移行する施策検討のため、取急ぎ、Windows10pro(32bit) + システムで使用している各種32bitツール(DLLなど)をインストール環境を準備しました。

※Windows1032bit及びグレップシティーやコムラッド提供のツールの知識は、開発者向け説明なので理解している事が前提条件です。

★32bit用OCXは以下の通り★

1_Visual Studio6+SP2 , 2_BOC TrueDbGrid , 2_BOC_ActiveComm_1J , 2_BOC_Inputman_5 ,
 2_BOC_QuickPakPro_4 , 2_BOC_Spread_2.5j+3.0J , 2_FormDesigner_3.0+4.0 , 2_PerfectGrid_10 ,
 2_PREPORTS , 2_Sybase_SQL_AnyWhere , など



④ 現行システムのVB6リソース版のVB.net化

この作業は、次頁で説明する「SharePointサンドボックスソリューション」を活用してアプリを作成する場合に必要な作業です。しかしながら、Visual Studio2008でのVB6からVB.netへの変換は期待された結果ではないようなので、画面とプログラムを移植して作成する事が必要で、相当な作業が掛かってしまいます。また、SharePointサンドボックス上にてアプリをコンパイルし作成しても、10年前以上より非推奨なので何時、廃止されるかが不明です。

⑤ SharePointサンドボックスソリューション の活用

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/visualstudio/sharepoint/differences-between-sandboxed-and-farm-solutions?view=vs-2022>

サンドボックス開発なので「Visual Studio 2022」でコンパイルし、SharePoint サーバーに配置し動作検証を実施
サンドボックスソリューションをSharePointアドイン デルに変換する

<https://learn.microsoft.com/ja-jp/sharepoint/dev/solution-guidance/sandbox-solution-transformation-guidance>

但し、この機能は10年前より非推奨で廃止される予定なので寿命は短いです。

上記の⑤と⑥の作業は、旧システムの構築時の作業工数とほぼ同一であり、且つ、使用・運用できる寿命も制限されているため、検証作業工数の無題になるため、今回は割愛させていただきます。

今回の検証期間と費用が定められているため、SharePointの従来のクラシックUIで活用できる部分は活用し、頻繁に使うアプリケーションライクな画面が必要な部分のみマイクロソフトが推奨するモダンUIの「Power Apps」での業務アプリを作成し、最先端のアプリケーションの在り方(提供)で且つ、大幅な作業工数の削減になりますので、この内容で今後、検証対応を進めていきます。



⑥ SharePointの従来のクラシックUIで活用できる部分の確認

SharePointの従来のクラシックUIで活用できる部分は活用し、頻繁に使うアプリケーションライクな画面が必要な部分のみマイクロソフトが推奨するモダンUIの「Power Apps」での業務アプリを作成し、最先端のアプリケーションの在り方(提供)で且つ、大幅な作業工数の削減なります。

基本、SharePoint(フレームワーク)へテーブルを移行した時点で、従来のクラシックUIの画面は作成されています。よって、頻繁にユーザーが使わないマスターテーブル系の画面処理は画面イメージは従来のSharePoint流ではありますが、不足している機能をJavaScriptを追記して同等に画面機能にすれば、運用上は問題ないのかと推測します。

ただ、頻繁にユーザーが使う業務アプリ画面系は、ユーザーの主観にもよりますが、モダンUIの「Power Apps」で作成に作業を振り分ける事が必要です。



⑦ Power Plat Formでの業務アプリの開発が必要

VBのフォーム⇒PowerApps化 ★PCブラウザ、ipad,iPhomeの端末は総て動く
PowerAppsのスキル保有人材は世の中に少ないが仕事は豊富です。(自分も熟知していません。)

※月額100万以上の仕事はゴロゴロ豊富です。

画面レイアウト編集はVBやVCと類似していてローコードツールと言われていますが関数は特有なので理解が必要です。

実際、VB6で実現していた機能は、ほぼ同一のステップの記述が必要なのでローコードではありません。

処理の流れの自動化やメール配信やWFはPower Automateで対応が可能です。

★概要が解かる書籍「ひと目でわかるMicrosoft 365 業務アプリ作成編」

https://www.amazon.co.jp/gp/product/4296080016/ref=ppx_yo_dt_b_asin_image_o00_s00?ie=UTF8&psc=1

この業界では昔から著名人で、以前は「InfoPath」のMVP、現在もこの関連のMVPを毎年、マイクロソフトより認定されています。

簡単な作成方法は、「SharePointを学ぼう_08.PowerPlatForm.pptx」に記載していますが、今後、VB6で作成した従来のシステムの画面機能のサンプルを作成し、別途、作業内容と作業量についてご報告させていただきます。

一連の作業方法は、Visual Studioで VB6からVB.net へ画面作成する作業内容と類似しており、前段の⑤と⑥の作業工数内で対応が可能と推測します。

また、BPO事業によるアウトソーシングによる作業工数の低減(50%減)も可能ですのでお勧めで、マイクロソフトが推奨する最先端のノウハウと開発技術も習得可能です。



【作業工数について】

【Microsoft365】(SharePoint)のリストと「PowerApps」で業務アプリ検証】 内容：12/01～01/31で作業工数は160時間で検証依頼

★SharePoint e-ラーニングサイト

<https://m365kjs.sharepoint.com/sites/ohana/>

⇒作業説明資料「14.Microsoft365を活用してシステム開発.pptx」

https://m365kjs.sharepoint.com/sites/ohana/DocLib01/SharePointを学ぼう_14.Microsoft365を活用してシステム開発.pptx

※準備12時間

※作成8時間

★SharePoint検証サイト

唯シリーズ : <https://m365kjs.sharepoint.com/sites/Sys01>

個別システム : <https://m365kjs.sharepoint.com/sites/Sys02/Pkg01> ~ Pkg10

① レガシーシステムのデータベースの移行

「SQLサーバー」や「Sybase」のテーブル ⇒ 「SharePoint」のリストに移行検証

※個別(4時間位)、結(大規模10時間以上)

② 現行システムの最新版開発環境の準備(Win10proX32bit)

※8時間位

③ 現行システムの参照テーブル先の変更

・ODBC設定 ⇒ 「SharePoint」リストにリンク設定「ACCESS」に変更

・新環境にてSQL記述部を参照先テーブルに合わせて改修と検証

※2時間位

※10時間以上

④ SharePoint標準のクラシックUI画面(マスタ登録などの画面)とアプリライクなカスタマイズが必要な画面の切り分け検討

※既設アプリ画面の類似対応は、⑥の検討が必要。

開発費用が掛かるため可能な限り対応したくない

※1画面作成するのに数日は掛る

※★今回は検証工数が限られているため実施しない

⑤ SharePointのサンドボックスで「VisualStudio2022」でアプリ作成

※★このマイクロソフト非推奨で永明が期待できない事を念頭に入れておく事

・既設の「VB6」プログラムを「VB.net」化

・「VB.net」プログラムをSharePointのサンドボックスにて「VS2022」でコンパイルしプログラムの作成

・動作検証 - 単一EXEでない場合は連携設定などの機能の追加も必要

※1画面作成するのに数日は掛る

⑥ 既設の「VB6」や「VB.net」で作成されているマスターメンテナンス系画面

クラシックUI画面を一部 JavaScript でカスタマイズし機能検証

※1画面30分以内

⑦ 既設の「VB6」や「VB.net」で作成されているアプリライク系画面

「Power Apps」で画面を作成し、PowerAppsの内部コードを追加して機能検証

※1画面作成するのに数日は掛る

⑧ 帳票出力機能はPDF化やEXCEL化対応しペーパーレス化を実現検証

